

学会彙報

(昭和六十年七月～十一月)

れた。

編集後記

◇学術懇談会

九月十日(火)午後四時十分

於 第一小会議室

講師 K・N・O・ダルマダーサ博士

スリランカ・ペラデニヤ大学教

授

講題 Puntala について

◇研究例会

十一月二十二日(金)午後四時十分

於 一〇二教室

研究発表

盤珪の仏道観について

博士後期課程三回生 田原 圭介

涅槃経における仏性と如来蔵について

博士後期課程三回生 藤谷 信道

非摂減について

本学助手 宮下 晴輝

研究発表終了後、第一研究室分室

一において、発表者を囲み、反省会
がもたれ、活発な意見の交換がなさ

◇人事(昭和六十年四月一日付)

昇格 一色順心氏(短・専任講師)

新任 白館戒雲氏(文・専任講師)

加治洋一氏(短・助手)

白土わか氏・柏原信行氏・小林

圓照氏・松田和信氏(非常勤講

師)

浅野玄誠氏・山野俊郎氏(特別

研修員)

白土わか教授は定年により三月三十一

日付で退任された。

仏教学科主任(兼本学会会長)が長崎

教授より三桐慈海教授に交代された。

◇出版書目

小谷信千代著『大乘莊嚴經論の研究』

文栄堂、昭和五十九年三月刊。

佐々木教悟著『戒律と僧伽』《インド・

東南アジア仏教研究Ⅰ》平楽寺書店、昭

和六十年四月刊。

雲井昭善著『仏教誕生』平川出版、昭

和六十年四月刊。

氏家覚勝先生、逝く!

去る十月二十一日、氏家先生の逝去の報に接し、驚きと共に大切な人を失ったという思いが切実であった。先生は、種智院大学卒業の後、本学の大学院に入學され、山口益先生、安井広済先生の下でインド大乘仏教を学ばれた。博士課程終了の後、請われて高野山大学に赴任、大學生として生きる道を選ばれたのである。温厚な人柄、着実な研究で、その将来が囑望されていただけに誠に残念であると、いわざるをえない。

「仏教学セミナー」の第四一号に、「毘盧遮那仏の説法」という講演筆録をいたしたが、それは昭和五十九年十二月六日に開かれた本学会主催の公開講演会でご講演いただいたものである。その原稿が初校となった頃に先生は入院されたのであり、今にして思えばはからずも、これが先生との最後のご縁となったわけである。先生のあまりにも早すぎたご逝去

を悼みつつ、お悔み申し上げる次第である。

最後になったが、本号にご寄稿いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。

(小川)

賛助会員募集

次の要項で賛助(定期購読)会員を募集いたします。会員には本誌を発行後すみやかにお送りし、本会の出版物を割引価格でおわけします。

○年間会費(二冊分)

国内 11,000円

海外 US \$ 10.00

○申込み 603 京都市北区小山上総町
大谷大学第一研究室内
大谷大学佛教学会

* 申し込みは郵便振替が便利です。

(京都 4-25303 大谷大学佛教学会)

大谷大学佛教学会編『佛教学への道しるべ』

B 6 判 370頁, 定価 2,500円 (〒 200円) 昭和 55 年 2 月 文栄堂刊

第一編 インド佛教研究への道しるべ

| | | |
|-----|-------------|-------|
| 第一章 | 原始佛教 | 舟橋一哉 |
| 第二章 | 原始佛教—外国の文苑— | 佐々木現順 |
| 第三章 | 戒律佛教 | 佐々木教悟 |
| 第四章 | アビダルマ佛教 | 舟橋一哉 |
| 第五章 | 大乘経典 | 櫻部建 |
| 第六章 | 中観佛教 | 安井広濟 |
| 第七章 | 唯識佛教 | 安井広濟 |
| 第八章 | インド佛教史 | 佐々木教悟 |
| 第九章 | チベット文献 | 稲葉正就 |

第二編 中国佛教研究への道しるべ

| | | |
|-----|----------------|------|
| 第一章 | 中国佛教研究法私見 | 横超慧日 |
| 第二章 | 読解力の養成・必読すべき経論 | 横超慧日 |
| 第三章 | 概説書・参考書・基礎資料 | 横超慧日 |
| 第四章 | 学会誌と論文集 | 横超慧日 |

第三編 インド学研究への道しるべ

| | |
|--------|------|
| インド学散策 | 雲井昭善 |
|--------|------|

第四編 日本佛教研究文献要覧

| | |
|------|------|
| 白土わか | 坂東性純 |
|------|------|

申込み先 会員・賛助会員, 大谷大学第一研究室内 佛教学会(遠方の方は郵便振替を利用下さい) 一般, 文栄堂書店又はもよりの書店